

令和6年度 支援学校 仙台みらい高等学園 第2回学校評議員会

●日 時 令和7年2月28日（金）午後3時00分～午後4時15分

●参加者 【本校】野崎、藤原、菅野、松寿、下村、百井、相澤、青山、福田、鈴木、佐藤、会津、
久田、有馬、川崎、和泉

【評議員】以下参照

●会 場 支援学校 仙台みらい高等学園 寄宿舎食堂

●内 容

1 学校長挨拶（野崎）

- ・資料1ページから24ページまで、各分掌部運営計画の振返りと達成率の記載があるが、5月に評議員の皆様に来ていただき、生徒の様子を見てもらっている中、この1年間、校長として達成率の数字では測ることができない成長を実感している。特に1年生は入学から様々な出来事があり、心配が絶えなかった。しかし、今は120%自信をもって進級させることができると言える。
- ・教職員による評価は控えめな印象があるが、次年度入学の募集・入試の結果において、少子化かつ競合校も増えている激戦のなか、本校は定員に対して多数の希望者があった。仙台みらいで学びたいと希望する生徒が増加している。卒業生、在校生の活躍のおかげだと感じている。今後も引き続きよろしく見守っていただきたい。

2 評議員紹介

- | | |
|-----------------------------------|----------------|
| ・全国農業協同組合連合 耕種総合対策部 | 次長 岩田 和彦様（欠席） |
| ・全国農業協同組合連合 耕種総合対策部 東北営農資材事業所事業所長 | 阿部 浩人様 |
| ・社会福祉法人共生福祉会 萩の郷福祉工場 | 福祉部部长 高橋 康弘様 |
| ・仙台市青葉区荒巻町内会 | 役員 菊地 希壽様 |
| ・株式会社ガモウ 広域エリア営業部 | 東北エリア統括 井上 英治様 |
| ・宮城学院女子大学 教育学部 教育学科 | 教授 梅田 真理様 |

3 分掌年度反省報告

■共通 【活動方針、活動目標、達成率】 ※資料参照

【課題と次年度に向けての改善策】 ※各分掌部、以下参照

■教務部（松寿）

（教務）

- ・諸帳簿の様式改善や有効的な会議の実施により、業務の効率化を図る。
- ・入試について変更点等の内部での全体共有と、各校への統一した情報提供を行う。
- ・行事や生徒状況について各家庭、講師への情報共有を行う。

(保健)

- ・応急処置（嘔吐物の処理なども含む）のマニュアル化、ガイドラインの作成を行い、教職員が一貫した知識、行動の周知徹底をするための表示、講習会、研修を行う。
- ・健康診断の事後処置として、受診率のさらなる向上を目指し、受診の勧奨を行う
- ・生徒が正しい知識を持ち自ら健康的な生活を送ることができるよう、来年度は特に口腔内の健康に重点を置き、歯磨き指導、歯磨きタイムなどを実施する。

■生徒指導部（百井）

(生徒指導)

- ・「学校のルール」は目標を明確に提示し、生徒が納得できるようにする。
- ・教職員内での認識を統一し、一貫した指導を行う。
- ・特別指導の指導方法や流れについて、支援学校に即した指導方法や流れについて検討し、卒業後の生徒の姿を意識した指導を行えるようにする。
- ・交通安全教室や SNS 被害防止教室では、座学ではなく、生徒の特性に合わせた形式で実施する。
- ・体験ができる内容や自分の体験を振り返りながら学べる内容とし、生徒たちの日常と結びつく活動を行う。

(生徒会)

- ・生徒会や委員会に加入することが目的となり、活動への意欲が低い生徒がいるため、生徒の意欲を向上させ自分の役割に責任感を持たせる必要がある。
- ・生徒会や委員会のメンバーだけでなく、他の生徒も主体的に活動が行えるように放課後ライブなどのような任意参加の場を設定していく。

(余暇活動)

- ・生徒の目につきやすい場所にチラシを貼るなど、情報提供の仕方を検討する。
- ・アンケート等を行い、生徒のニーズを把握し、卒業後にもつながる場とつなげられるようにしていく。
- ・軽度知的障害児を対象とした地域のスポーツ教室など、受け皿となる場の情報収集を行っていく。
- ・卒業生から情報を提供してもらい、卒業後の生徒の実情に即した活動ができる場を探していく。

■進路指導部（下村）

(進路指導)

- ・本科3年課程、本科+専攻科5年一貫での課程における進路指導の進め方を確立し、全教職員が統一して進路指導ができるようにする。また、それに伴い専攻科進学を早期決定させ、各自の課題に取り組めるようにする。専攻科入学生についても同様に進路指導方針を確立する。
- ・担任が企業開拓や企業訪問ができる仕組みを構築する。教務と連携し、時間割の調整を行い外出しやすい環境を整える。

(有償インターンシップ制度)

- ・内部進学の子生について、早期に有償インターンシップを開始できるよう、本科3年後期より計画実行の仕組みを確立する。また、実施する生徒の条件を明確化し、有償インターンシップが行えることに特別感を持たせる。特に専攻科から入学した生徒においては、実習を初めて行う生徒も多くいることから、安易に実施できると思われないようにするために制度を見直す。

■地域支援部（福田）

(支援)

- ・本校生徒と地域住民の関係の充実を図るため、近隣大学と年2回以上イベントを行う予定だったが実施まで至らなかった。今までイベントを実施しことがないため、来年度のイベントへ繋げられるよう情報収集を行った。今年度得た情報をもとに4月に計画を立て動いていく。

(研究)

- ・困り感のある教職員が個に応じた適切な指導を進められるよう、生徒の行動観察を踏まえ指導助言を行うことができたが、学年会への出席は少なかった。
- ・学年単位での指導と助言が課題なため、教務と連携し計画を立案する。
- ・教職員の専門性向上のため、全職員に同じ内容の研修を受けてもらったが教職員によって経験値や知識量に差があった。経験や知識量に合わせて、グループを分けて研修を行う。また、障害に対し未習の教職員に対しては研修を増やす。
- ・教職員の授業力向上のための現状把握、研修会を行う。

■防災環境整備部（相澤）

(課題)

- ① 校舎内外にクラックが目立つ、経年劣化による校舎の改修・修繕工事が必要。
- ② 避難訓練前には教員対応方法をマニュアル化もしくは事前講習が必要。

(改善策)

- ① 取引先と連携を図り、破損個所の修繕対応を検討する。
- ② 消防署等外部の協力を得て訓練を行う。

■事務部（川崎）

(庶務)

- ・入試事務にて、受検票の誤字が判明したため、次年度は願書が届いた時点で学生管理システムの情報を修正、出願管理表にも反映しダブルチェックを徹底する。

■舎務部（鈴木）

(生徒指導)

- ・外部の機関や施設の協力を仰ぎ、様々な余暇活動を経験する機会や取り組みを考えていく。
- ・運動が苦手な生徒に合った内容の活動も取り入れることで、生徒自身が自ら選択する力を高めていけるよう活動の幅を広げていく。

- ・ 1 回のみの体験で終わらず、定期的に実施できる活動を取り入れていくことで卒業後の生活にもつなげる。

■広報部（鈴木）

（課題）

- ・ 個別相談会などに参加した専攻科希望者に対する働きかけが不十分だった。次年度は、内部進学希望者の人数も多数見込めるが、受検希望者が例年より伸び悩んでいるため、全日制高校及び通信高校、姉妹校（通信高校・専門学校）への広報強化が必要。

（対策）

- ・ 専攻科増員に向けた通信学校や全日制高校への訪問時期、説明方法の検討を行う。（オンライン説明会・学校見学会・訪問など）
- ・ 専攻科対策として DM やツールの見直しを行う。
- ・ 本科希望者には専攻科を含めた 5 年間の一貫教育、専攻科希望者には有償インターン制度の打ち出しを強め、丁寧な説明を行う。

4 学校評価について（松寿）

- ・ 分析、考察 ※資料参照

【改善策】

- ① クラブ活動等への参加機会の提供
- ② 自分の思いを伝える力、自己管理能力の育成
- ③ 生徒のキャリアプランニング
- ④ 教職員のスキルアップ
- ⑤ 地域との連携

5 いじめアンケートについて（百井）

- ・ 対象生徒聞き取り内容、考察、改善策 ※資料参照

6 進路指導について（下村）

- ・ 令和 6 年度一般就労希望者進路決定状況、進学希望者進路決定状況、進路決定状況まとめ、考察 ※資料参照

【令和 7 年度に向けて】

本科 3 年課程、本科＋専攻科 5 年一貫での課程における進路指導方針の見直しを行い、進路指導の進め方を確立し、全教職員が統一して進路指導ができるようにする。

就労希望企業や専攻科進学を早期決定させ、より各自の課題に取り組めるようにする。

7 質疑

（全国農業協同組合連合 阿部 浩人様）

「資料 1 ページの保健受診率 50 %」は、本人は行きたがらないのか？他に理由があるのか？

(佐藤回答)

理由は不明だが、未成年のため、本人の考えというよりは、保護者の方の考えが大きく影響しているのではないかと考える。強制することはできないが、受診の推奨という形で伝えている。次年度どのように対応していくのが良いか検討していきたい。

(仙台市青葉区荒巻町内会 菊地希壽様)

- ・開校から4年学校に携わっているが、静かな生徒達が多い印象。1～2年目は、こづきあいが日常茶飯事。2年目以降はそのようなことは少ないように感じる。生徒同士の中で完結しているのではないかと先生方が掴み切れないいいじめが増えているのではないかと？
- ・挨拶も大人しい。もう少し元気な挨拶をするようにしてほしい。
- ・仕事のやり方が変わってきている。IT、AIを取り入れてみるのもいいのではないかと？
- ・畑の活用について、宮教大とのコラボができるのではないかと？宮教大陸上競技場脇のヤギの餌として、キャベツやサツマイモをあげている。学校間の連携を検討してみてもいいのではないかと？
- ・子どもたちが毎日元気で通学してもらえることが一番。コロナが影響しているのか？

(青山回答)

関係各所と検討し、善処する。挨拶等については、今後しっかり指導を行う。

8 指導助言

(全国農業協同組合連合 阿部 浩人様)

- ・各部ごとにしっかり分析されていると感じる。説明を聞いても、納得できるものである。開校4年目、入学希望者数は増加している一方で、専攻科が未達である。引き続き広報活動を強化してほしい。運営面については、非常にデリケートな問題もあり、どのように現状を把握していけばよいかという点もあるが、引き続き取り組んでほしい。

(社会福祉法人共生福祉会 高橋 康弘様)

- ・次年度本科定員達成。教職員の普段を努力が実ったのではないかと？進路指導部では、卒業生の退職、転職者がでている。理由を知りたかった。
いじめは、声なき声を聞き取ることに尽力し、あとあと後悔のないように取り組んでほしい。

(下村より進路について回答)

- ・連絡がないまま退職。自身で再就職先を見付けているケース。
- ・支援を拒否し、フリーで求職しているケース。
- ・支援は続けたが、就労は難しく退職するケースでは、遠方の就労先から仙台に戻り、現在は新たな就労先が見付かった。
- ・上記以外にも、就労先、保護者と連携取りながら進めている。

(株式会社ガモウ 井上 英治様)

- ・進路指導について、企業と繋ぐイベントを行ったが、今年度は実施しなかったため、協力することができなかった。芸美コースは、昨年12月に実施したワインディングコンテストにおいて、

任意参加した生徒の意識が非常に高かった。プロ用の用具を提供しているため、さらに興味関心を持ってもらえたのではないかなと思う。個人的には、昨年のドラマ「ライオンの隠れ家」で自閉症が世間に知られるきっかけとなったように思う。障害者法定雇用率が上がっているため、弊社も充足していない現状。会社がどのような方針かは不明だが、個人的にはどのようなことが障害者就労の受け皿になるのか考えていきたいと思う。

(宮城学院女子大学 梅田 真理様)

- ・多忙のなか、評価をまとめてもらい大変感謝している。評価を通して今まで取り組みを見つめ直すことは非常に重要である。若い教職員が多くいるが、ここで多くのことを学び、長く続けてほしい。
- ・進路指導については、仕事の中身は知的障害のある生徒が清掃分野での就労が多いが、子供達の興味に沿った形で進路の分野が広がってほしいと願っている。今後ますます進路の新規開拓を期待している。
- ・今年度、仙台市の障害者の生涯教育に携わっている。主に文化活動中心。2月にメディアテークで行われた「きいて、みて、しって、見本市。」のなかで、芸術活動で多方面から出展があった。学校としても校外活動に活用してみてもいいのではないかな？仙台市でも障害のある人もない人も一緒に学ぶ場としてイベントを実施している。運動に偏りがちな活動が多いという話も出ていたが、絵やモノづくり等の興味の幅を広げ、出品等も含め検討してほしい。なお、来年は県、市協同で実施することも検討している。

9 副校長挨拶（藤原）

- ・年度末を終えてはいないが、2024年度もやっところまで来たという印象。第1回学校評議員会でご助言いただいたことを反映し実行できた部分もある。
- ・これまでの開校から3年間を礎に、さらに質の向上を目指して体系化を行ってきた。この1年の伸び代は最大であると感じている。
- ・3月14日は卒業式が実施される。卒業生7人、修了生2人の9人が卒業、修了することになる。今年は新たに「みらいカフェ」を実施したが、大変有意義な行事ができたと自負している。生徒が笑顔でもてなし、来場者も笑顔でいるところを見ると、良かったと感じる。次年度はさらにバージョンアップしていきたい。
- ・1月に開催した同窓会では、令和5年度の卒業、修了生が笑顔で来てくれたが、学校がよりどころになっていると実感することができた。学校の価値として定着させていきたい。
- ・本年度、三幸学園の学園長、理事長、役員、校長等と県知事や県教育長・副教育長、市教育長等への表敬訪問を行った。本校の特徴ある取り組みを評価していただくとともに、更に対外的アピールをしながら実績を積んでいきたい。
- ・次年度も多くの新入生が入学し、本年度よりも生徒数が大幅に増え、経営的にも安定してくるフェーズになる。5年目以降は人的や環境的な整備も行い、更なる好循環に向けて、投資の観点も持ちながら学校運営を進めたい。